

本物を体験すること

校長 相川 保 敏



11月19日に、PTAとの共催で名フィル共演コンサートを3年ぶりに開催させていただきました。当日は、保護者の皆様には子どもたちへの温かいご声援と

子どもたちが安全かつスムーズに出演するためのご協力をいただき感謝いたします。特に、開催にあたりご尽力をいただきましたPTAの役員・幹事の方々、指揮者の松井慶太様、名フィルの関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

私は今回初めて共演コンサートを鑑賞しました。フルオーケストラをバックに歌うというような機会はそうそうあるものではありません。前の日から、楽しみで眠れませんでした。実際に、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、トロンボーン、バス・トロンボーン、テューバ、ティンパニーなど数多くの楽器が奏でる色とりどりの音色と子どもたちの歌声が調和し、低学年は元気よく、中学年はリズムに合わせて、高学年は美しく歌声を響かせていました。子どもたちはこれまでに何度も練習し、その都度修正点を直しながら緊張の本番を迎えたことでしょう。子どもたちの歌声、真剣なまなざし、そして持っている力を出し切ろうとする姿に感動し、涙があふれそうになりました。

子どもの歌声とともに、もう一つ印象に残ったことがあります。それは、本番前のゲネプロでの出来事です。ゲネプロとは、ご存じのように本番前の通し練習のことです。名フィルの生演奏に合わせて、低、中、高学年が緊張感の中で歌い始めます。指揮者の松井さんは、子どもたちをほめつつ、ちょっとしたアド

バスを子どもたちに投げかけていきます。曲のイメージを子どもたちにわかる言葉で的確に指導されると、その後の歌声があつという間に変わります。手品のようです。指揮者とは、本当にすごいなあと思心しました。本番で司会の橋本先生が、3年前の名フィル共演コンサートでの松井さんを子どもたちがしっかり覚えているというエピソードを紹介してくれました。こうした指導・助言によって自分たちの歌声が変わったり、合唱を楽しんだりできた記憶が、松井さんを忘れない存在としたのではないかと思います。

松井さん、名フィルという本物との共演は、これからの子どもたちにとって、大変意義深いものだと考えております。今回の合唱のみならず、「目標に向かって何度も練習し、そこで身に付けた力を本番で発揮できること」は、子どもたちのこれからの学校生活、これからの人生に大きな力となるはずで、そして、「大きな舞台」を踏むことで自分の成長を感じたという子どもが多いのではないのでしょうか。そして「大きな舞台」を目指す過程で、「地道な努力」や「修正点を見つけ、改善のための工夫をすること」、「人と支え合うこと」などの大切さも感じられたことと期待します。

梶山小学校の子どもたちはどんな行事でも前述のように、練習で培った力を発揮し、大きな成果をあげます。このような力をこれからも伝統として受け継いでいってほしいと思います。

さて、今月のめあては「周りのことも考えよう」です。子どもたちの周りには様々な人が生活しています。家庭では家族、学校では友達、通学中は利用客など、時間や場所によって周りの状況は変わってきます。今回の名フィル共演コンサートで周りことを考えて取り組んだ経験を活かし、今月の目標に取り組んでほしいと思います。